

マツダ財団 2019年度終了研究助成一覧 ー青少年健全育成関係ー

No.	研究題目および研究概要	研究代表者
①	<p>青少年のノンアルコール飲料摂取と飲酒行動に関する縦断調査研究</p> <p>本研究では、酒類の代替飲料として開発され、ここ数年で市場規模が急速に拡大したノンアルコール飲料に着目し、青少年を対象とした縦断調査によってノンアルコール飲料の摂取と飲酒行動との関連およびその出現順序について検証する。また、青少年を対象とした飲酒防止のための効果的な教育プログラムの開発や家庭環境、社会環境の整備に向けた具体的な示唆を得るために、ノンアルコール飲料の摂取と飲酒行動との関連性やその出現順序に影響を及ぼす心理社会的要因、環境要因等についても検討を行う。</p>	<p>宇都宮大学 教育学部</p> <p align="right">久保 元芳 准教授</p>
②	<p>青少年がつくる「ふるさとのまつり」伝統芸能継承活動と地域文化創造ー地域にくらす子ども・若者組織の「学びのプロセス」に関する研究ー</p> <p>本研究は、鹿児島県の青少年組織の実態の基礎調査をもとに、過疎化が進み地域の担い手育成が急務である中山間地域において、主に伝統芸能継承について青少年組織がどのように関わっているか実態調査を行う。現在、いくつかの青少年組織が伝統芸能に関わっている大隅地域を中心に、2年間で、地域文化創造の取り組みを実践する。青少年組織との協働作業でのワークショップ等を実施しながら、舞台創造、「ふるさとのまつり」を実施する。これらの基礎調査と実践活動から地域文化継承活動への関わりと青少年育成との有効性、地域コミュニティの再生の可能性について明らかにするものである。</p>	<p>一般財団法人鹿児島県青年会館 青年問題研究所</p> <p align="right">池水 聖子 事務局長</p>
③	<p>東日本大震災後の被災地における子どもの心身状態に関する研究</p> <p>東日本大震災の被災地では、子どもの発達段階にそぐわない言動や暴力的な事例が依然として存在する。これは、大規模災害が中長期に渡って子どもの精神的健康や発達に影響することを示唆している。これまで申請者は、被災地の保育所等への訪問を通じて、長期的に心理支援を必要とする子どもが存在することを国内外に発信してきた。しかしながら、これらの問題は一般にはほとんど認識されていない。震災から6年が経過し、義務教育までは各自治体等が主導して心のケアを行ったようである。一方、高校生以上になるとこうした機会は格段に乏しい現状にある。発達段階に応じた子どもの心の支援を進める上で、まずは発達段階ごとの支援の現状や課題を整理する必要があるだろう。本研究では、大規模災害後の子どもの心身状態を把握するために、0～22歳までの子どもを教育および支援する教職員などの専門家を対象とした調査を行う。</p>	<p>東北福祉大学 総合福祉学部</p> <p align="right">柴田 理瑛 助教</p>
④	<p>幼少期における動くおもちゃものづくり・遊び・学びによる自己肯定感の育成</p> <p>本研究で取り扱う開発教材は、不思議や驚きをとまなう独創的な科学技術ものづくり教材であり、その材料のほとんどは木材であるが、機能性材料である形状記憶合金を使用する教材も含まれ、産業界の技術革新の一端に触れ、技術者と同じような創意工夫・試行錯誤をとまなう経験が可能である。本研究では、これまでの研究を発展させ、新学習指導要領、科学技術基本計画、STEM、ESD教育の実施を促進するための研究を行う。子どもたちは、実験から得られる科学的データを設計に生かす探究を行い、試行錯誤によるものづくりを経験する。関心意欲の原動力は、内発的動機づけに変容する興味発達の4段階理論 (Showers-of-Emotion Theory) に基づく、教材の持つ不思議さや驚きであり、熱中する子どもたちの姿が出現する。授業実践におけるものづくり・探究活動・研究活動を通して、子どもの変容を明らかにする。</p>	<p>静岡大学 教育学部</p> <p align="right">松永 泰弘 教授</p>
⑤	<p>特別な配慮を要する子どもに対する周囲の児童生徒の受容度の実態調査と受容度を高める教育プログラムの開発</p> <p>発達障がいがある、外国にルーツがあるなど、特別な配慮を要する子どもたちを、他の子どもたちはどう理解をしているのだろうか。多様性に関する理解が深まることによって、子どもたちの受容度はどのように変わるだろうか。本研究では、特別な配慮を要し支援を受ける子どもたちをめぐる、通常学級に在籍する定型発達、マジョリティの子どもたちの理解度に焦点をあて、現状に関する実態調査と、多様性に関する教育の実施をとおして、共生社会の実現に向けた現状、課題、方法を明らかにする。</p>	<p>法政大学 キャリアデザイン学部</p> <p align="right">遠藤 野ゆり 准教授</p>
⑥	<p>高等学校におけるセクシュアル・マイノリティの生徒への支援に関する調査研究</p> <p>研究代表者は、我が国の小学校と中学校におけるセクシュアル・マイノリティ支援の実態と課題を全国調査によって明らかにしてきた。本研究では、学校住所録から無作為抽出した全国の高等学校1800校を対象に質問紙調査を実施することによって、我が国の高等学校におけるセクシュアル・マイノリティ支援の実態と課題を明らかにする。これまでの研究成果と統合することで、本研究から、学校におけるセクシュアル・マイノリティへの支援の充実にに向けた知見を得る。</p>	<p>静岡理工科大学 情報学部</p> <p align="right">本多 明生 准教授</p>